

2020年度4月入学  
東北大学大学院経済学研究科  
会計専門職専攻筆答試験

「会计学」

第1問から第3問に解答しなさい。第1問は答案紙1に、第2問は答案紙2に、第3問は答案紙3に解答しなさい。答案紙の右上に答案紙の番号が記載されている。また、解答はすべて解答欄の範囲内で記述しなさい。

※ 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。

2020年度4月入学  
東北大学大学院経済学研究科  
会計専門職専攻筆答試験問題「会計学」

第1問から第3問に解答しなさい。第1問は答案紙1に、第2問は答案紙2に、第3問は答案紙3に解答しなさい。答案紙の右上に答案紙の番号が記載されている。また、解答はすべて解答欄の範囲内で記述しなさい。

第1問 問1、問2の両方に解答しなさい。

問1 以下の文章を読んで、設問1から設問3のすべてに解答しなさい。

企業会計原則 一般原則3では「資本取引①と損益取引②とを明瞭に区別し、特に資本剰余金と利益剰余金とを混同してはならない③」と定められている。

設問1 下線部①について具体例を挙げて説明しなさい。

設問2 下線部②について具体例を挙げて説明しなさい。

設問3 下線部③が定められている理由について説明しなさい。

問2 設問1から設問4のすべてに解答しなさい。

設問1 資産および負債の区分において適用される正常営業循環基準について説明しなさい。

設問2 インベスター・リレーションズ (Investor Relations) について、その概要を説明しなさい。

設問3 偶発債務とはどのような債務か、具体例を挙げて説明しなさい。

設問4 企業会計基準第17号「セグメント情報等の開示に関する会計基準」において採用されているマネジメント・アプローチの内容について説明しなさい。

第2問 以下の問1と問2の両方に解答しなさい。なお、便宜上、金額は小さくしてある。税効果会計は適用しない。計算過程で端数が生じる場合、計算途中では四捨五入せず、最終数値の円未満を切り捨てること。また、数値の記入には、必ず3桁ずつ桁区切りを付けること。

問1 X4年3月期（X3年4月1日～X4年3月31日）の期末日に、P社はS社の発行済株式総数の80%を¥100,000で取得して支配した。このときのS社の純資産項目は資本金¥60,000と利益剰余金¥30,000であり、S社の資産と負債の時価は帳簿価額と一致していた。以下の各設問の両方に答えなさい。

1. X4年3月31日現在の連結貸借対照表を作成するために必要な連結修正仕訳を示しなさい。
2. 翌年度（X4年4月1日～X5年3月31日）の期末日におけるP社の売掛金残高に、S社に対する売掛金¥8,000が含まれていた。P社ではこの売掛金に対して2%の貸倒引当金を設定している（差額補充法）。なお、X4年3月31日時点ではS社に対する売掛金は存在しなかった。この場合における連結修正仕訳を示しなさい。

問2 株式会社片平商事のX2年3月期（X1年4月1日～X2年3月31日）に係る〔資料〕に基づいて、答案紙2の精算表の勘定科目、修正記入、損益計算書および貸借対照表の欄を完成させなさい。

〔資料〕決算整理事項等

1. 決算日において現金の実査を行ったところ、現金の実際有高が帳簿残高より¥1,100不足していたが、原因は不明である。
2. 当座預金残高について銀行勘定調整表を作成したところ、次の事実が判明した。
  - （1）仕入先に振り出した小切手¥2,800が銀行に未呈示だった。
  - （2）得意先から他社振出小切手¥3,100を受け入れていたが、当社ではこれを当座預金の増加として処理しており、決算日現在金庫に保管したままであった。
  - （3）広告宣伝費の支払のために振り出した小切手¥1,900が未渡しであった。

3. 建設仮勘定の期末残高は全て新店舗に係るものであり、X2年2月1日に完成して同日から使用していたが、未処理であった。

4. 売掛金の中に、前期に発生して回収が遅延しているものが¥660含まれており、回収の可能性がないものと判断して、貸し倒れとして処理する。

5. 受取手形および売掛金の期末残高に対して、1%の貸倒引当金を設定する。ただし、差額補充法による。

6. 商品の期末棚卸高は以下のとおりである。商品売買の記帳は3分法で行い、売上原価は「仕入」の行で計算する。なお、商品評価損と棚卸減耗損は精算表上独立の科目として処理する。

帳簿棚卸数量 220個 原価@¥20

実地棚卸数量 210個 正味売却価額@¥19

7. 固定資産の減価償却を以下の要領で行う。なお、当期中、上記3における未処理のもの以外には固定資産に増減はなく、過年度の減価償却費計上は適正に行われている。

建物：耐用年数は40年、残存価額はゼロとして、定額法により償却する。

備品：200%定率法、耐用年数8年により償却する。

なお、当期に取得した建物についても同様の条件で減価償却を行うが、月割で減価償却費を計上する。

8. その他有価証券の期末残高は全て当期に取得した株式であり、決算時における時価は¥38,200である。その他有価証券については全部純資産直入法を採用している。

9. 税引前当期純利益の30%を法人税、住民税及び事業税に計上する。

第3問 以下の問1から問3のすべてに解答しなさい。計算過程で端数が生じる場合、計算途中では四捨五入せず、最終数値の円未満を四捨五入すること。また、数値の記入には、必ず3桁ずつ桁区切りを付けること。

問1 A社では2種類の製品X・Yを製造・販売しており、原価計算方法として組別総合原価計算を採用している。組間接費は直接作業時間に基づき配賦する。以下の〔資料〕に基づき、設問1から設問5のすべてに解答しなさい。

〔資料〕

1. 生産データ

	製品 X	製品 Y
月初仕掛品	800kg (0.5)	600kg (0.2)
当月投入	4,700	3,600
合計	5,500kg	4,200kg
完成品	4,300	3,000
月末仕掛品	1,200 (0.6)	1,200 (0.5)
合計	5,500kg	4,200kg
直接作業時間	2,560 時間	960 時間

2. 原価データ

製品 X			組間接費	
	原料費	加工費	当月投入加工費	464,640 円
月初仕掛品	103,800 円	82,260 円		
当月投入	415,480 円	253,440 円		

  

製品 Y		
	原料費	加工費
月初仕掛品	98,430 円	32,800 円
当月投入	518,970 円	754,880 円

注：

1. 原料はすべて工程の始点で投入される。
2. 生産データ内の（ ）内の数値は加工進捗度を表す。
3. 月末仕掛品の評価は、製品 X では先入先出法、製品 Y では平均法によりそれぞれ行うこと。

設問1 製品 X への組間接費配賦額を解答しなさい。

設問2 製品 X の月末仕掛品原価を解答しなさい。

設問3 製品 X の完成品単位原価を解答しなさい。

設問4 製品 Y の月末仕掛品原価を解答しなさい。

設問5 製品 Y の完成品総合原価を解答しなさい。

問2 B社は設備投資案として第1案と第2案を検討している。以下の〔資料〕をもとに、設問1から設問6のすべてに解答しなさい。

〔資料〕

第1案

- ・設備の取得原価は2,000万円である。耐用年数は4年であり、投資終了時の売却価値はゼロで、処分費用はかからない。この設備は現時点で取得するものとする。
- ・今後4年間にわたって毎年600万円の正味キャッシュ・インフローが予想される。

第2案

- ・設備の取得原価は3,000万円である。耐用年数は4年であり、投資終了時の売却価値はゼロで、処分費用はかからない。この設備は現時点で取得するものとする。
- ・今後4年間に予想される正味キャッシュ・インフローは以下のとおりである。

1年度末	2年度末	3年度末	4年度末
800万円	900万円	1,000万円	1,100万円

注：

- ・B社は黒字企業である。
- ・すべての取引は現金で行われ、税金は考慮しないものと仮定する。
- ・すべてのキャッシュフローは期末に発生するものと仮定する。
- ・B社の必要利益率は6%である。
- ・割引計算に際しては、以下の現価係数表を用いなさい。

現価係数表

n \ r	2%	4%	6%	8%	10%
1年	0.980	0.962	0.943	0.926	0.909
2年	0.961	0.925	0.890	0.857	0.826
3年	0.942	0.889	0.840	0.794	0.751
4年	0.924	0.855	0.792	0.735	0.683
5年	0.906	0.822	0.747	0.681	0.621

- 設問 1  $r = 6\%$ 、 $n = 5$  の場合の年金現価係数を解答しなさい。
- 設問 2 第 1 案の正味現在価値を計算過程とともに解答しなさい。
- 設問 3 第 2 案の内部利益率が  $8\%$  を越えるかどうかを計算とともに説明しなさい。
- 設問 4 投資案を単純回収期間法によって評価する場合、第 1 案と第 2 案のどちらが優れた投資案かを計算とともに説明しなさい。
- 設問 5 第 1 案と第 2 案の正味現在価値を比較し、どちらの案を採用すべきかを説明しなさい。
- 設問 6 B 社の必要利益率を  $10\%$  であるとする。投資案を正味現在価値によって評価する場合、B 社はこれらの設備投資案件についてどのように意思決定すべきかを説明しなさい。

問 3 以下の (1) と (2) の用語をそれぞれ簡潔に説明しなさい。

(1) コストリーダーシップ戦略 (2) 実際的生産能力

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

科目	会 計 学
----	-------

成績	
----	--

第1問

問1

設問1 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

設問2 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

設問3 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

問2

設問1 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

設問2 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

設問3 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

設問4 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

科目	会 計 学
----	-------

成績	
----	--

第2問

問1

	仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1				
2				

問2

精 算 表

(単位:円)

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	8,100							
当座預金	19,800							
受取手形	1,760							
売掛金	32,900							
繰越商	5,800							
仮払法人税等	4,500							
建物	39,800							
備品	8,900							
建設仮勘定	46,800							
その他の有価証券	34,300							
買掛金		8,700						
未払金		5,400						
未払法人税等								
貸倒引当金		890						
建物減価償却累計額		25,500						
備品減価償却累計額		2,500						
資本		100,000						
繰越利益剰余金		22,370						
売上		93,400						
受取配当金		230						
仕入	30,900							
給料	22,200							
広告宣伝費	3,230							
	258,990	258,990						
( ) 損								
貸倒 ( )								
棚卸減耗損								
商品評価損								
減価償却費								
( )								
法人税、住民税及び事業税								
当期純利益								

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

科目	会 計 学
----	-------

成績	
----	--

第3問

問 1

設問 1		円	設問 2		円	設問 3		円
------	--	---	------	--	---	------	--	---

設問 4		円	設問 5		円
------	--	---	------	--	---

問 2

設問 1	
------	--

設問 2	
-----	

設問 3	
-----	
-----	

設問 4	
-----	
-----	

設問 5	
-----	
-----	

設問 6	
-----	
-----	

問 3

(1)	
-----	
-----	

(2)	
-----	
-----	